

変わりゆくもの・ 変わらないもの

清水勇治 (高38回)

「変わりゆくもの・変わらないもの」——これは、昨年の『稲穂』に私が寄稿した「55歳のつばやき」のタイトルです。手段は変われども目的は見失ってはいけません。物事の本質を捉えることが重要。総会の幹事長を務めるにあたり、常に念頭に置いていたことです。

4年ぶりのリアル開催

2023年度の総会は、在京飯田高校同窓会の設立70周年の記念大会でした。幹事活動が本格的にスタートした2023年3月には、長く続いたコロナ禍に終息の兆しが見え始め、4年ぶりに懇親会を含むすべてのプログラムをアルカディア市ヶ谷で開催できるのは、との期待が高まっていました。

そうした中で、まず考えたのは「持続可能な同窓会活動を目指して、今、私たちにできること」という

な同窓会活動」には、故郷(母校)を懐かしみ大切に
する気持ちだけでなく、グローバルな視点も必要だと
考え、このような2本立てにしました。

○「銀座NAGANO」の出張販売

2014年にオープンした長野
県のアンテナショップ銀座NAGANOには、飯田高校の同窓生も
深く関わっており、2016年度
の総会では、高31回生の熊谷晃さ
んが「銀座NAGANOから見え



好評を博した「銀座 NAGANO」
の来店

てきた地域活性化のヒント」と題して講演をされていま
す。そこで、総会への出店を(タメ元で)打診したところ、ご快諾くださり、当日は信州の懐かしい・新しい品々
が好評を博しました。後日、担当の方から、「在京飯田
出身者という強い応援隊の皆さまに、改めて銀座NAGANOの名前を知っていただく機会になったこと心
より感謝申し上げます」とメールをいただきました。

○70周年記念グッズ

SDGsを(少し)意識し、
配布物や購入品の持ち帰りにも
便利なオリジナルデザインの
トートバッグⅡ写真Ⅱを、参加



●しみず・ゆうじ
飯田市大瀬木(伊賀良中)出身。
東京農工大学工学部卒業。19
91年パイオニア株式会社入社。
事業譲渡により、現在はエア・
ウォーター株式会社に勤務。趣
味はオートバイ、音楽鑑賞。

幹事の活動コンセプトです。昭和28(1953)年5
月にこの同窓会を創立し、平成、令和と襷を繋いでき
た先輩方の想いを大切にしつつ、コロナからのリスター
トを機に、様々な世代の会員が参加する意味を感じら
れるような総会のあり方を考えたい。そして、懇親会
は交流の場——旧交を温めるとともに、新たな交流が
生まれる場——であることを明確にしたい。この2点
を共有し、リアル開催に向けてオンラインミーティン
グを重ねました。

講演と70周年記念企画

○講演

佐藤健飯田市長が「飯田の今とこれから」、萩原豊T
BSテレビ報道局報道番組センター長兼解説委員長が
「分断の現場から」と題して講演しました。「持続可能

者にプレゼントしました。母校の校舎をモチーフとし
たデザインは、幹事学年から案を募り、14案からオン
ライン投票により決定しました。次点を当日のスライ
ド・名札に使用しました。

○樽酒の鏡割り

喜久水樽酒の鏡割りからの乾杯はリアル開催ならで
は。「70周年」「コロナからのリスタート」を実感して
いただけたのではないかと思います。

むすび

10年前の幹事経験の微かな記憶と先輩方から引き継
いだ膨大な資料を頼りに総会の準備を進めながら、企
画や開催方法は違っても、根底にある想いには相通じ
るものがあるように感じました。一方で、我々を取り
巻く環境は刻一刻と移り変わっているのですから、踏
襲するだけでなく、見直し・更新は必須です。そのギャッ
プを埋めたのは幹事一人ひとりの経験知であったよう
に思います。高校時代と変わらない部分と卒業後の人
生を経て変わった部分の交錯、これも同窓会活動の魅
力の一つと言えるかもしれません。

今後、在京飯田高校同窓会が、大切にすべきところ
を守りつつ、変化し、持続していくことを期待します。